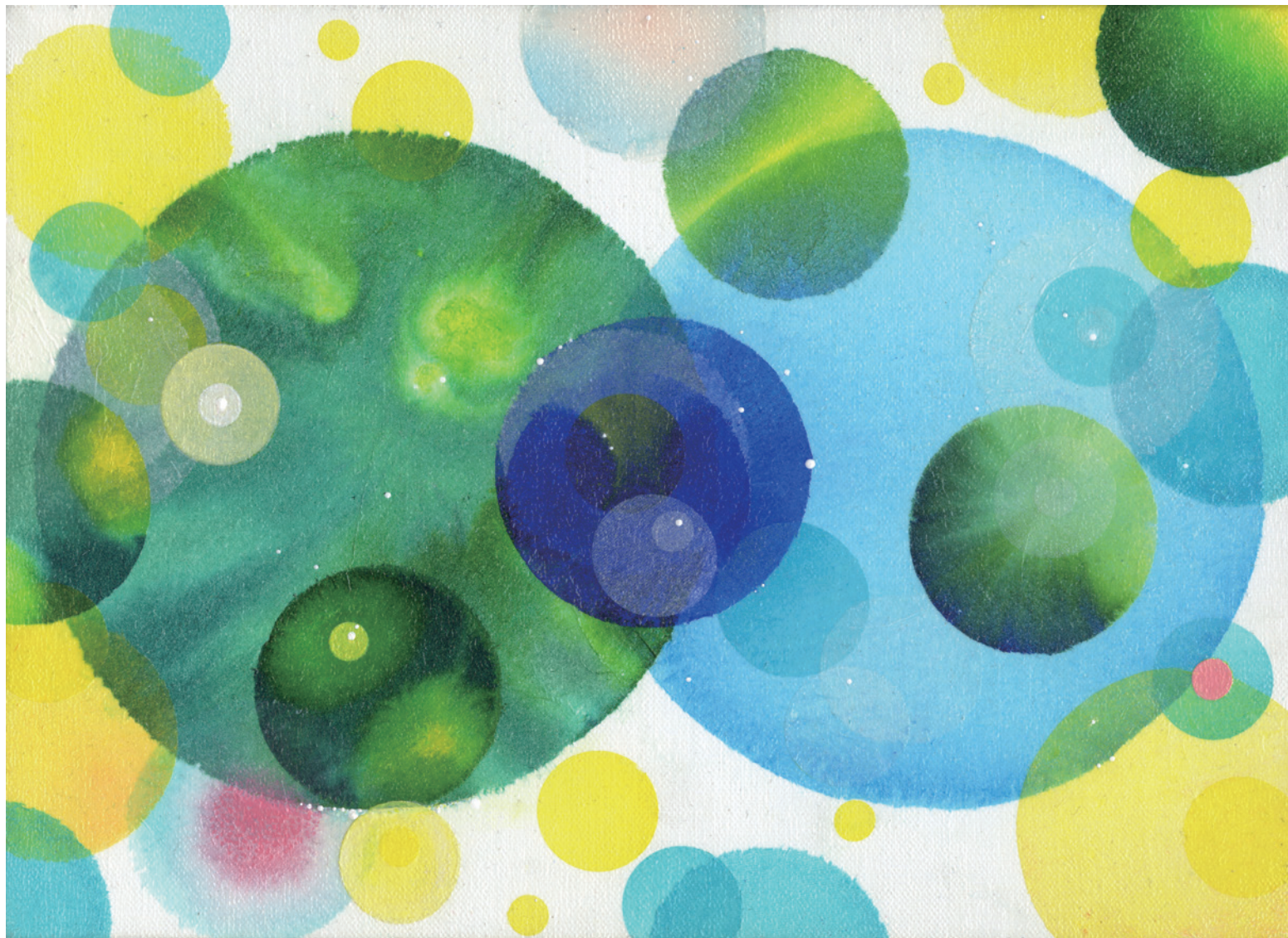


永谷園グループ

サステナビリティ
レポート

2024



トップメッセージ

永谷園の企業理念「味ひとすじ」と サステナビリティへの取り組み

永谷園グループの企業理念は「味ひとすじ」です。

「味ひとすじ」は、永谷園の創業者である永谷嘉男の『お茶づけに一生を捧げる』という想いを言語化したものです。

「味ひとすじ」とは、「今までにない」「お客さまになるほどおいしいと感じてもらえる」「他社にマネができない」商品を出し続けるという決意です。そして、この決意の目指すところは、お客さまに思いを馳せ、思いやりを持って「食を通じて幸せで豊かな社会づくりに貢献していく」ためであることにほかなりません。

近年、気候変動をはじめとした地球環境や社会にかかわる様々な問題等により、日常生活は大きく変化してきています。また、持続可能な社会の実現に向け、気候変動対策を含めたサステナビリティへの対応が、社会全体で求められています。永谷園グループも事業活動を継続する立場として、これらの問題への対応を、企業の社会的責任ととらえて取り組んでいます。

永谷園グループのサステナビリティ推進体制と 重要課題の設定

2022年、「永谷園グループサステナビリティ方針」を策定するとともに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、当社グループ全体で強化することを目的として、わたくしが委員長である組織横断型の「サステナビリティ委員会」を設置し、推進体制を構築しました。このサステナビリティ委員会を中心として、社会や環境問題をはじめとする課題解決に向けて活動しています。

また、2023年にはサステナビリティに関する当社グループの重要課題と、課題ごとの対応方針・指標・目標を設定し、活動をより具体的に運営・管理・実践できる仕組みを整えました。

「食を通じた活動」による持続可能な 「幸せで豊かな社会」の実現

これからも永谷園グループは、持続可能な「幸せで豊かな社会」を実現するために、「食を通じた活動」、つまり商品の設計・製造・販売・使用等のあらゆる場面で、今できることを一つひとつ実践してまいります。

将来の社会が「幸せで豊かな社会」であり続けるために、今我々ができることを実行し、皆さま一人ひとりの未来に向けて貢献してまいります。



株式会社永谷園ホールディングス
代表取締役社長

永谷 泰次郎

企業理念

永谷園グループは、創業の精神である「味ひとすじ」を企業理念とし、すべてのお客さまに信頼され、ご満足していただける安全・安心な商品・サービスを提供することを経営の基本方針としています。この基本方針に沿った事業展開により、お客さまから愛され、信頼される永谷園ブランドの形成に努めています。

「味ひとすじ」は永谷園の企業理念です。
企業理念とはその会社の基本的な考え方・信念・価値観のことです。お客さまに思いを馳せ、私たちにできることを考え抜く。その志なくして「味ひとすじ」はあり得ません。

「味ひとすじ」とは、

1. 今までにない
2. お客さまに「なるほどおいしい」と感じてもらえる
3. 他社にマネができない

そういう商品を出し続けるという「決意」なのです。



筆／永谷嘉男(永谷園 創業者)

編集方針

当サステナビリティレポートは、永谷園グループのサステナビリティに対する考え方や取組みを報告しています。

永谷園グループを支えてくださる皆さま(お客さま、お取引先さま、地域住民の皆さま、およびグループ従業員)に分かりやすくお伝えすることで、より一層の理解を深めていただき、さらなる価値向上につなげることを目的としています。

- 報告対象期間 2023年4月～2024年3月 ※一部、当該期間外における取組みが含まれています。
- 発行年月 2024年11月
- 次回発行予定 2025年11月
- 報告対象組織 本報告書は、永谷園グループを報告対象としています。なお、本文中に記載している企業名は法人格を省略しています。また、永谷園ホールディングスと永谷園の共通の取組みは、まとめて「永谷園」として報告しています。
- 環境パフォーマンス (株)永谷園ホールディングス、(株)永谷園、(株)永谷園フーズ、対象組織 (株)サニーフーズ、藤原製麺(株)、(株)DAY TO LIFE※ ※製造拠点のみ

表紙：パラリンアート作品

作品名 緑生まれる

作家 吉野公賀

作品テーマ

自然環境をテーマに、光や水によって緑(植物)が生まれているイメージで描かれています。

一般社団法人障がい者自立推進機構が運営する「パラリンアート」とは、障がい者の芸術表現を通じ、社会参加と経済的自立を推進する活動です。



障がい者アートを応援しています

CONTENTS

トップメッセージ 1

カンパニーインフォメーション

企業理念／目次／編集方針 2

会社概要 3

サステナビリティマネジメント 4

バリューチェーンの流れとSDGs 5

マテリアリティ

重要課題 6

食の安全安心 7

気候変動への対応 10

資源循環／廃棄物削減 15

持続可能な調達 17

人権への対応 18

ステークホルダーエンゲージメント

お客さまとのかわり 22

地域社会と次世代の発展のために 24

教育支援活動 26

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス 27

編集後記 28

会社概要

永谷園グループは、永谷園ホールディングスを持株会社とする持株会社体制の下、「国内食料品事業」、「海外食料品事業」、「中食その他事業」を展開しています。

商 号 株式会社永谷園ホールディングス
会 社 設 立 1953年4月
資 本 金 35億292万円
売 上 高 【連結】1,138億21百万円(2024年3月期)
従 業 員 数 【連結】2,546名(2024年3月末現在)
代 表 者 代表取締役社長 永谷 泰次郎
本 社 所 在 地 〒105-8448 東京都港区西新橋二丁目36番1号

グループ会社(2024年3月末現在)

国内食料品事業

■株式会社永谷園

お茶づけ、ふりかけ、即席みそ汁など幅広い加工食品を製造・販売。

■株式会社永谷園フーズ

「お茶づけ海苔」「おとなのふりかけ」「あさげ」「麻婆春雨」「すし太郎」など永谷園の主力商品を製造。フリーズドライ、レトルトをはじめ幅広い生産設備を保有。

生産拠点は、酒田工場(山形県)、サンフレックス工場(福島県)、茨城工場(茨城県)、船橋工場(千葉県)、松本工場(長野県)、オクトス工場(三重県)、岡山工場(岡山県)、岡山御津工場(岡山県)の8カ所。

■株式会社サニーフーズ

主に企業向けの食品原料(エキスパウダー、顆粒品、健康食品原料)を製造・販売。
生産拠点は、栃木工場(栃木県)。

■藤原製麺株式会社

ラーメン、そば、うどん、そうめんなど麺類全般(常温・チルド)を製造・販売。

■株式会社喜多方らーめん本舗

生麺の製造卸販売。

海外食料品事業

■Chaucer Group

●Chaucer Foods UK Limited
●Chaucer Foods Inc.
●Chaucer Foods SAS
●Chaucer Foods (Qingdao) Co. Limited ほか
フルーツなどのフリーズドライ食品、パン製品の製造・販売。

■Main On Foods Group

●Main On Foods, Corp.
●JSL Foods Inc.
焼きそば、うどんなどの麺類をはじめ、春巻や餃子の皮などの製造・販売。

中食その他事業

■株式会社DAY TO LIFEホールディングス

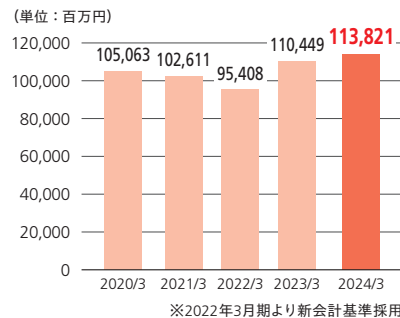
●株式会社DAY TO LIFE
「ビアードパパのつくりたて工房」「きなことろり」「ココフラン」などのスイーツ事業、飲食店の経営。
●MUGINOHO GLOBAL PTE. LTD.
●日樂芙台灣股份有限公司(DTL Taiwan CO., LTD.)

■Muginoho International, Inc.

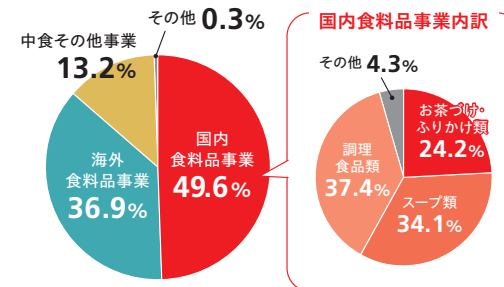
北米において、「Beard Papa's」のスイーツ事業を運営。

業績の概要(連結)

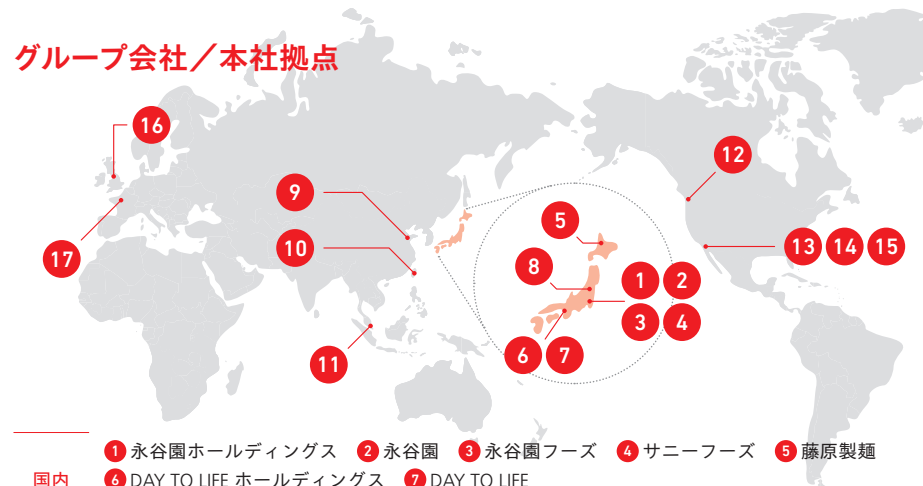
売上高の推移



事業の種類別売上構成比(2024年3月期)



グループ会社/本社拠点



- 1 永谷園ホールディングス 2 永谷園 3 永谷園フーズ 4 サニーフーズ 5 藤原製麺
6 DAY TO LIFE ホールディングス 7 DAY TO LIFE
8 喜多方らーめん本舗
9 Chaucer Foods (Qingdao) Co. Limited (中国)
10 日樂芙台灣股份有限公司 (DTL Taiwan CO., LTD.) (台湾)
11 MUGINOHO GLOBAL PTE. LTD. (シンガポール)
12 Chaucer Foods Inc. (米国) 13 Main On Foods, Corp. (米国)
14 JSL Foods Inc. (米国) 15 Muginoho International, Inc. (米国)
16 Chaucer Foods UK Limited (英国) 17 Chaucer Foods SAS (フランス)

サステナビリティマネジメント

永谷園グループは、2022年12月に持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、グループ全体で強化することを目的として、「永谷園グループサステナビリティ方針」を策定し、サステナビリティ推進体制を構築しました。

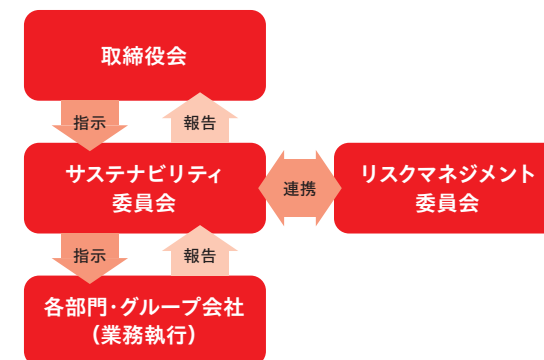
永谷園グループは、「食を通じて幸せで豊かな社会づくり」に貢献するため、サステナビリティ委員会を中心に、社会や環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題の解決に、ESG視点で取り組み、持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的成長の実現を目指します。

サステナビリティ方針

「味ひとすじ」の想いを常に抱き、
オリジナリティの精神
おいしさを提供し続ける決意
お客さまに寄り添い、思いやる気持ちを持ち、
様々な社会の課題に対して、
食を通じた活動を通して取り組みます。
そして持続可能な「幸せで豊かな社会」づくりに
貢献してまいります。

推進体制

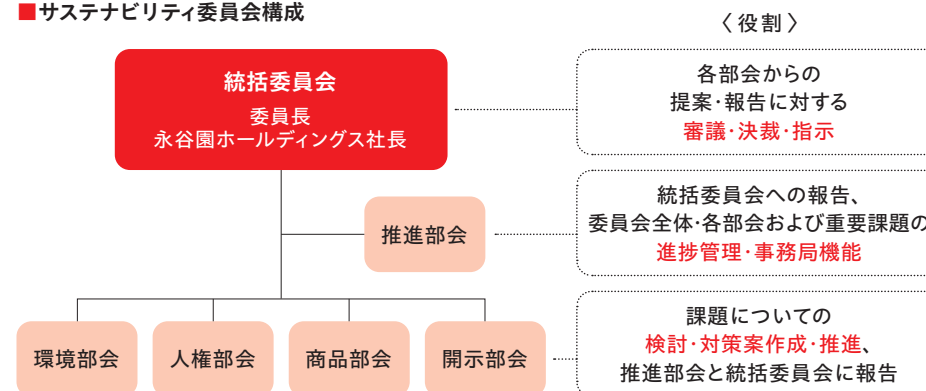
サステナビリティ委員会は、永谷園ホールディングス社長を委員長として、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定、および取り組みを推進しています。同委員会は、取締役会への活動報告、リスクマネジメント委員会との連携等を担い、経営基盤の強化を進めます。



サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、取組む項目別に4つの部会「環境部会」「人権部会」「商品部会」「開示部会」と、サステナビリティ委員会全体の運営管理を行う「推進部会」、これらの各部会からの方針・目標・取組み内容の提案を受け、審議・決議する「統括委員会」からなり、課題に対して対応する体制を構築しています。

■ サステナビリティ委員会構成



バリューチェーンの流れとSDGs

永谷園グループでは、世界の共通課題である「持続可能な開発目標(SDGs)」で掲げられた目標について、対応すべき重要な課題と認識しています。

永谷園商品を例に、商品開発から、原料や資材の調達、生産、物流、営業活動、使用ま

	テーマ	取組み	関連するSDGs
創る	設計	おいしさ・品質の追求	
		多様なニーズに対応した商品開発	
		食品ロス削減	
		環境負荷低減	
作る	調達	環境に配慮した調達	 
		省資源・省エネルギー	
		労働安全の追求	

でのバリューチェーン全体を「創る」「作る」「売る」「使う」という各段階で、SDGsとどのように関連するかを以下の表にまとめました。

各段階で、SDGsが描く2030年の将来に向けた社会課題の解決に貢献していきます。

	テーマ	取組み	関連するSDGs
売る	営業	環境負荷軽減	 
		食品ロス削減	
		省エネルギー	
		お客さま視点での商品開発・改善	

重要課題

永谷園グループでは、SDGsや様々な国際基準、食品業界での解決すべき問題などをもとに、取組むべき課題を抽出し、事業活動と社会への影響度について検討した結果、以下の「重要課題」を特定し、課題ごとに「方針」「指標と目標」を設定しました。

「指標と目標」は、サステナビリティの重要課題解決に向けて、関連する取組みテーマについて指標化したものです。地球環境の変化や社会状況を注視しながら、進捗や

実績を把握し、より高い到達レベルを目指し目標を設定していきます。

サステナビリティの重要課題は、持続可能な社会の実現への貢献と、永谷園グループの持続的な成長の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重要課題の見直しを行います。

重要課題	方針	主な実施項目	指標	目標（2030年度）	対象	対応するSDGs
食の 安全安心	● お客さまに安心して召し上がっていただけるよう、独自の品質保証システム「NAFSAS（ナフサス）※」により、安全安心な商品づくりを徹底いたします。 ● 食物アレルギーを持つなど、食事に選択肢が必要な方に、安心して召し上がっていただける商品の開発・徹底した製造・品質管理、社会への理解の啓蒙活動などを積極的に実施します。 ● 防災食の開発に積極的に取組みます。	● NAFSASの管理 ● 食物アレルギー対応 ● 災害備蓄品の開発・販売	方針に沿った内容が維持されている状態		永谷園ホールディングス 永谷園 永谷園フーズ	 
気候変動 への対応	● 製造工場はもちろん、すべての事業所を対象にCO₂排出量の削減を目指します。 ● 環境に配慮した商品開発を推進していきます。	● CO₂排出量削減 ● 環境配慮資材使用 ● TCFDへの対応	CO ₂ 排出量削減	(2018年度比) 30%削減	永谷園ホールディングス 永谷園 永谷園フーズ 国内グループ会社での製造工場	 
資源循環・ 廃棄物削減	● 廃棄物削減のため、廃棄物自体の排出削減と再資源化を進めていきます。	● 廃棄物排出量削減 ● 再資源化率アップ	水使用量削減	(2018年度比) 30%削減		
			再生可能エネルギー使用率	(2018年度比) 15%増		
持続可能な 調達	● 安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先さまと協働して進めていきます。	● 調達方針策定、実践	廃棄物量削減	(2018年度比) 20%削減		
			再資源化率	95%		
人権への 対応	● 永谷園グループにかかわるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、学びの場の拡大、「組織全体」で育む環境づくりなどを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り、多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、環境整備に取組んでいきます。	● 人的資本への対応 ● 人権方針策定、実践	女性管理職比率	15%	永谷園ホールディングス 永谷園	 
			男性の育児休業取得率	30%以上		
			女性の育児休業取得率	100%		

※NAFSAS（ナフサス）：永谷園味ひとすじ食品安全保証システム（Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System）の頭文字をとったもの。

食の安全安心_1

食品安全への取組み

永谷園グループでは、「商品・サービスの安全性の確保」を、企業行動指針の1番目に掲げて取組んでいます。

2009年に、独自の品質保証システム「NAFSAS (ナフサス^{※1})」を構築し、その後も常に世界情勢や食品安全に関する動向を注視し、様々な国際規格のノウハウを取り入れながら、永谷園グループの企業規模や風土に適合させた形へと、整備・運用をしています。

NAFSASでは、商品開発からお客さまに商品をお届けするまでを「品質保証・顧客満足」「食品安全」「危機管理」の3つの柱で構成して、創業当時の「味ひとすじ」の企業理念を念頭に、活動を行っています。

永谷園では、今後もこの「味ひとすじ」を充実させ、「安全・安心」で、「おいしい」商品開発への取組みを続けていきます。

永谷園グループ品質保証システム

NAFSAS

Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System

お客さまが、安心して商品をお召し上がりいただけるように、
食の安全と安心を提供し続けます。

品質保証・顧客満足

食品安全

危機管理



「NAFSAS」を構成する3つの柱

1 | 品質保証・顧客満足 | 永谷園品質マネジメントシステム (ISO9001)

ISO9001のシステムにより、社内の定期監査や、外部機関の審査による、効果的な運用の確認、管理体制の維持、継続的な改善を行っています。

2 | 食品安全 | 食品安全管理システム

HACCP^{※2}管理を重要視した、国際規格であるFSSC22000^{※3}で規定されている事項を基本とし、食物アレルギー監査^{※4}などのノウハウを取り込み、衛生管理(食品安全のための前提条件プログラム)や、フードディフェンス^{※5}の管理を、独自の内容で各生産工場の状況に合わせ、進化させて運用しています。

3 | 危機管理 | 商品回収システム・トレーサビリティシステム

ISO9001や食品安全管理システムで、品質トラブルの発生を未然に防ぐよう管理していますが、万が一、永谷園が提供した商品に重大な問題が発生した場合を想定して、早急に適切な対応が取れるように、商品回収管理規程を整備・運用しており、定期的に模擬訓練を実施しています。また、商品の生産・加工・流通の各段階において、原材料や包材の情報、商品の製造場所、販売先等の記録を残しており、商品の履歴情報を追跡できるようなシステムを構築しています。

※1 **NAFSAS (ナフサス)**：永谷園味ひとすじ食品安全保証システム (Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System) の頭文字をとったもの。

※2 **HACCP (ハセツプ、ハザップ)**：工場を運営するうえで基本となる衛生管理(一般的衛生管理プログラム)を実行したうえで、各商品において原料の入荷から商品の出荷まで、製造工程ごとに予測される危害の分析を行い、その分析にもとづいて適切に管理する(危害分析)という衛生管理手法。

※3 **FSSC22000**：ISO22000と食品製造に関する一般的衛生管理の基準(ISO/TS22002-1)を組み合わせた食品安全システムの国際規格。

※4 **食物アレルギー監査**：食物アレルギー配慮商品を製造している、永谷園フーズ岡山工場とオクトス工場において、食物アレルギー対策先進国である、カナダの権威のある機関より教育訓練を受けている、シーアンドエス株式会社にご協力をいただいて、定期的に食物アレルギー配慮商品を製造するために、適した環境であるか、監査を実施し、高い評価を得ています。

※5 **フードディフェンス**：食品への意図的な異物や毒物などの混入や、汚染を防止する安全管理手法です。工場への入退出管理や、工場内で使用する洗剤や薬品などの、施錠管理・在庫管理を徹底しています。

食の安全安心_2

主な取組み

原料調達の特長な管理

永谷園は、長年の「経験」や「技術」をもとに商品開発に努めています。

70年以上親しまれている「お茶づけ海苔」などに使用している海苔は、1967年に全国の漁連の入札権を取得し、永谷園商品に合った品質の海苔を50年以上、自ら選んで直接買い付けています。食品メーカーでこの入札権を持っているのは、極めて珍しいことです。

また、同じく「お茶づけ海苔」に使用している抹茶は、国産の茶葉を使用し、お茶づけにした際に鮮やかな緑色で、風味豊かな品質のものを、科学的に確認するほか、購買担当者と品質管理担当者による人間の感覚（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚など）を用いた「官能検査」で選定しています。



品質保証連絡会

永谷園ホールディングスでは、商品の企画・生産・販売と、商品に携わる関連部門で構成する「品質保証連絡会」を開催し、商品の改善へと結びつける活動を行っています。日々寄せられるお客さまからの貴重なお申し出内容を、月単位で集計・分析・評価を行い、その内容に対する課題に取組むだけでなく、食品安全に関する時事ニュースについても情報を共有し、企業としての対応方針を決定しています。同連絡会は定期的に開催しており、取組み内容の進捗状況を随時確認しています。

正確かつ迅速な情報提供

永谷園ホールディングス品質保証部では、社内外への商品情報の提供と管理を行っています。お客さまからのお問い合わせに、迅速かつ正確に回答するためのサポートや、お取引先さまへの商品情報の迅速な提供、社外で原材料に問題が生じた場合の自社商品への影響など、商品情報がいつでも素早く確認できるように、常に最新の状態に日々管理することで、顧客満足度向上の一端を担っています。

ナフサス監査

永谷園ホールディングス品質保証部による定期監査で、永谷園独自の食品安全ルールが遵守されているかを、工場ごとに評価しています。監査での指摘については、スケジュールに従って改善し、その後の状態を品質保証部で評価することで、継続的なレベルアップを図っています。定期監査では、現場確認だけでなく、2021年6月より本格施行されたHACCP制度化を含め、国内外の食品安全に関する動向を踏まえた食品安全管理システムの提案、システム構築のサポートも実施しています。

また、サプライヤー管理強化の一環として、原材料や資材の供給先工場に対しても、定期監査を行っており、国際的な食品安全規格の内容をもとに評価を実施しています。

緊急時に備えた勉強会

健康被害が発生した場合には、事故内容や改善状況など、正確な情報を適切なタイミングでお客さまにお伝えすることが重要です。そのため、事故が発生した場合に、工場で行うべきことや、お客さまが必要とする情報とはこういったものかなどを、各工場の従業員に定期的に教育することで、有事の際には、全社一丸で対応できるように努めています。

食の安全安心_3

食物アレルギーへの取組み

永谷園では、食物アレルギーをお持ちの方でも、「安心しておいしく召し上がっていただける食品を提供したい」という思いから、食物アレルギー配慮商品を発売しています。

なかでも2003年に誕生した「A-Label」シリーズは、「くるみ・小麦・そば・卵・乳・落花生」および「大豆」と、「香料・着色料」を使わない永谷園独自のブランドです。食物アレルギーの有無にかかわらず、同じ食事が楽しめる豊かな社会の実現を目指します。



工場での取組み

食物アレルギー配慮商品において特に気をつけなければならないのが、コンタミネーション※です。アレルゲンとなる食材がほんの微量でも混入することがあってはならないため、原材料の調達から生産、さらにはライン洗浄に至るまで、その危険性を防止するための管理方法を確立し、通常の商品よりも厳しい条件で食物アレルギー配慮商品の生産を行っています。

※コンタミネーション：原材料としては使用していないにもかかわらず、ごく微量の特定原材料等やアレルギー物質が意図せずに商品に混入してしまうこと。

他社と協同の取組み

食物アレルギー配慮商品を持つ食品メーカー6社（エスエスケイフーズ（株）、オタフクソース（株）、ケンミン食品（株）、（株）永谷園、日本ハム（株）、ハウス食品（株）（五十音順））で、「食物アレルギーの有無にかかわらず、みんなで食事をおいしく楽しめる社会の実現」に貢献することを目的に「プロジェクトA」と名付けて、食物アレルギー配慮商品の普及・啓蒙活動を行っています。

2021年5月には、食物アレルギーへの理解・関心を高めるため、副読本「知ろう！ 学ぼう！ 食物アレルギー～みんなでいっしょに楽しく食べよう～」を製作し、ご希望いただいた小学校に無料配布しています。同年10月からは、副読本を活用した出前授業を実施しています。

今後もプロジェクトAの一員として、食物アレルギーの情報発信と啓蒙活動に取組んでいきます。

防災食の発売

永谷園では、災害時にも役に立つ「フリーズドライごはん」「エー・ラベル（A-Label）あたたかなくてもおいしいカレー 5年保存」などの防災食を発売しています。

平時、非常時にかかわらず、どんな時でも「簡単に」「早く」「おいしく」食べることができる商品です。



2024年3月「リゾごはん」発売

2024年3月に発売された「リゾごはん」は、災害時に「水・熱源がなくてもおいしく食べられる」がコンセプトの商品です。本商品の発売により、防災担当者の“お困りごと”である「水の保管スペース確保」に対する課題解決につながりました。

賞味期間は、「カレーリゾごはん」8年・「五目リゾごはん」7年と長期保存が可能です。災害時の備蓄だけでなく、アウトドアなどでもご活用いただけます。

「フリーズドライごはん」は2021年に、「リゾごはん」は2024年に「日本災害食認証※」を取得しました。

※災害食の内、災害時に役立つこと、および日常でも積極的に利用可能な加工食品について、日本災害食学会が示す日本災害食基準を満たしていることを学会が認めた食品をいう。（日本災害食学会「日本災害食 認証基準」より）



一般社団法人防災安全協会が主催する「SDGs・災害食大賞。2023」の「健康・アレルギー部門」で、「フリーズドライごはん わかめ味」が、最優秀賞を受賞しました。



気候変動への対応_1

永谷園グループは、全従業員が環境の課題に対して積極的に取り組む指針として「環境基本方針」を策定しています。

省エネルギー、省資源、およびリサイクルの取組みを推進することで、企業活動から生じる環境負荷の低減および循環型社会への貢献を目指しています。

永谷園グループ 環境基本方針

環境理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、お客さまに満足していただける商品・サービスを提供するとともに、社会の一員として地球環境保全の大切さを理解し、環境に配慮した企業活動に取組み、幸せて豊かな社会づくりに貢献します。

行動指針

- ① 永谷園グループは環境に関する法令などの遵守はもとより、環境保全を推進していくための体制を構築し、地球環境への負荷軽減に継続的に取組みます。
- ② 環境保全に配慮した開発・生産に取組み、「環境に負荷の少ない商品・サービス」を社会に提供します。
- ③ 廃棄物の削減、リサイクルの推進および省資源・省エネルギーに努め、目標を掲げ「環境問題へ真剣に取り組む事業所」を目指します。
- ④ 社員一人ひとりが前向きに環境問題を考え、「環境問題へ真剣に取り組む社員」としての誇りを持ちます。

行動指針は「企業行動指針」のひとつに制定され、永谷園グループの企業倫理に関する基本方針として社内に周知されています。

環境保全推進体制

永谷園グループでは、環境保全活動を推進する体制として、サステナビリティ委員会に環境部会を設置しています。環境部会では、持続可能な社会の実現に向けた環境目標や施策の策定を行い、環境保全活動の推進に努めています。

環境マネジメントシステムの維持・向上

永谷園フーズの生産拠点では、環境保全活動を継続的に実施していくために、ISO14001に準拠した独自の「永谷園グループ環境マネジメントシステム (EMS)」を運用し、PDCAを回して維持・向上に取り組んでいます。同システムは、「永谷園グループ環境マネジメントマニュアル」を基本とし、各拠点のエコスタッフを中心に、目標やルール策定をして省エネルギー、廃棄物の削減などの環境保全活動を推進し、緊急事態の特定、対応方法の検討および訓練を実施して環境リスクの低減を図っています。

内部環境監査

永谷園フーズの生産拠点では、環境マネジメントシステムの継続的改善のために、毎年、内部環境監査を実施しています。

内部環境監査は、各拠点のエコスタッフが監査員となり、環境マネジメントマニュアルの要求事項にもとづいて、適合性と有効性を確認するとともに、環境関連ルールの遵守状況や、環境目標の達成度を確認しています。



気候変動への対応_2

永谷園グループの事業は、自然の恵みに依存しています。気候変動は、原材料となる水産資源の収量の減少や、品質劣化などに大きく影響します。今後の気候変動による影響は、事業の継続につながる経営リスクとしてとらえ、対応すると同時に新たな機会も見いだしながら、今後の事業戦略へ活かしていきます。情報公開に関しては、TCFD提言の枠組みに沿った内容で開示していきます。

TCFD提言にもとづく4項目の取組み

ガバナンス

気候変動に関するガバナンスは、サステナビリティ戦略のガバナンスに組み込まれています。

永谷園グループは、社会課題の解決と企業としての持続的成長を目指し、サステナビリティに取組むガバナンス体制として、グループ横断型組織「サステナビリティ委員会」を設置しています。

サステナビリティ委員会には、取組む項目別に部会を編成しています。特に気候変動については、「環境部会」が中心となり、方針・目標・取組み内容を立案して推進と管理を行い、その取組み状況は、「開示部会」が中心となって有価証券報告書やホームページへの開示を行っています。

サステナビリティ委員会の活動は、定期的に取り締役に報告し、リスクマネジメント委員会と連携しながら、経営基盤の強化を進めています。

戦略

永谷園グループでは、気候変動に伴う様々なリスクと機会について、外部環境の変化による緊急度と重要度の面から分析・評価を行い、気候上昇レベルにあわせたシナリオを想定して、リスクと機会の対応策を検討し、計画的に取り組んでいます。

リスク管理

企業活動全体のリスク管理においては、リスクマネジメント委員会でモニタリングをしており、特に経営への影響が大きく、対応の強化が必要なリスクは、重要項目として取り上げ、リスクマネジメント委員会で進捗管理をしています。

特にサステナビリティに関するリスクについては、サステナビリティ委員会が重要課題として設定しているため、該当部会である「推進部会」が中心となって、進捗管理を行っています。

指標と目標

気候変動によるリスクと機会を測定・管理するために用いている指標は、以下のとおりです。

指標	2023 年度実績	2030 年度目標
CO ₂ 排出量削減率（2018 年度比）	31% (21.5千t-CO ₂)	30%

※対象は国内グループ製造拠点（Scope1、Scope2）
2023年度を基準年とした売上高あたりの原単位の削減率です。

気候変動リスクの影響評価

大分類	小分類	リスク要因	事業への影響	時間軸	影響度
移行	政策・法規制	炭素税の導入	利益の圧迫 原材料の高騰	中期	大
移行	政策・法規制	CO ₂ 排出量に関する規制	再生可能エネルギー使用 等強化による コストアップ	短期～ 中期	中
移行	政策・法規制	包装資材に関する規制	コストアップ、 店頭からの撤退	中期	中
移行	市場	消費者の購買行動変化	環境負荷を考慮した商品 への購買行動	中期	大
物理	急性	台風・洪水などによる 操業ダメージ	工場等事業所、 原料資材メーカー、 物流などの機能停止	短期	大
物理	急性	世界的な異常気象の 激甚化	異常気象の頻発で 被害を受ける原材料が 拡大、調達に影響	短期	大
物理	慢性	暖冬による 商品ラインアップ変化	包装品質改良、 参入カテゴリー見直し	短期～ 中期	大
物理	慢性	倉庫輸送での高温による 品質劣化	品質維持のための コストアップ	短期～ 中期	大

気候変動への対応_3

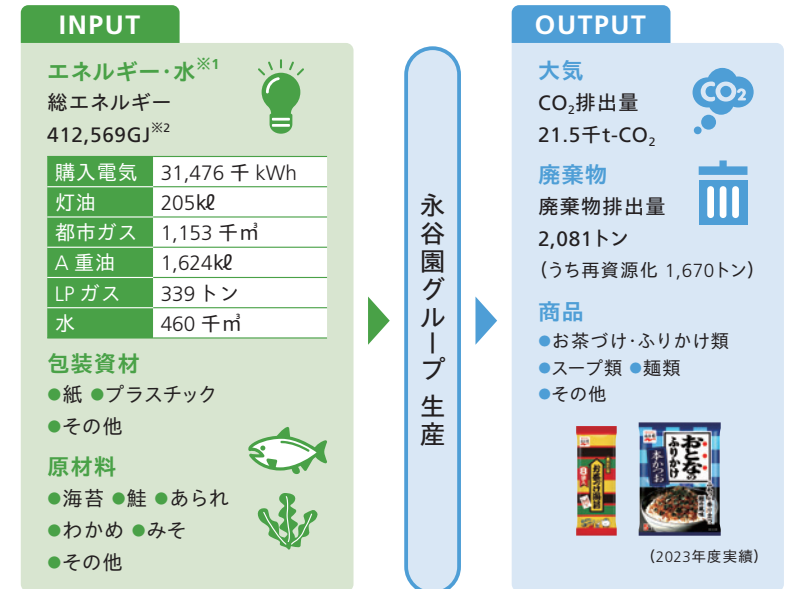
2023年度結果 | 永谷園グループでは、環境負荷の低減に取り組むために、環境パフォーマンスデータの把握を行っています。

実施項目	具体的取組み	2023 年度実績 (2022 年度比)
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量削減	18% の削減
廃棄物削減	排出量削減	11% の削減
	再資源化率向上	1.7 ポイント増加
	食品リサイクル率向上	5.5 ポイント低下
省資源	水使用量削減	11% の削減
	OA 紙使用枚数削減	20% の削減

- CO₂排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数の実績は、2023年度を基準年とした売上高（OA紙使用枚数は従業員1人）あたりの原単位の削減率です。
- CO₂排出量は、国内グループ製造拠点のScope1+Scope2の値です。
- 食品リサイクル率は、改正食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率です。
- 2018年度のOA紙使用枚数は、藤原製麺とDAY TO LIFEの実績は含まれていません。

マテリアルフロー

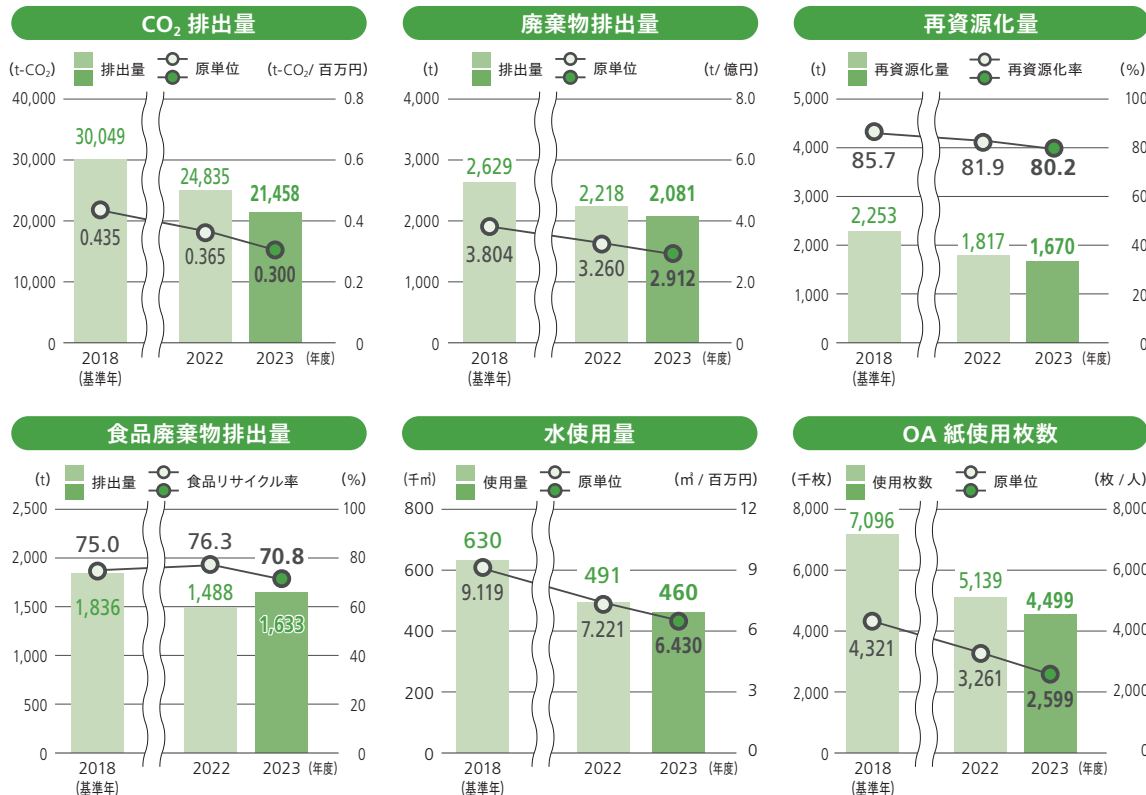
永谷園グループでは、生産拠点での環境への負荷を、「INPUT」から「OUTPUT」へと流れに沿って分析しています。永谷園グループでは、環境保全の大切さを理解し、今後も継続的な環境負荷低減に取り組んでいきます。



※1 換算係数

- ・電力:「電気事業者別のCO₂排出係数(2023年度実績)」の実排出係数に準拠
- ・都市ガス:各都市で発表している熱換算係数に準拠
- ・その他の燃料等:「エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則」および「地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづく命令」による係数に準拠

※2 GJ(ギガジュール) ジュールは発熱量の単位。1GJ=10⁹



気候変動への対応_4

気候変動などの環境問題に対して、包装資材の分野においても、地球環境を守る素材の採用が求められています。

永谷園グループでは、商品の包材に環境配慮型素材を導入することで環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

環境に配慮した包装資材の採用

プラスチック使用量の削減

■永谷園

2023年より、中華惣菜群の外装を薄層化しました。これにより年間約38トンのプラスチック使用量の削減になります。



■DAY TO LIFE

DAY TO LIFEのビードパパ店舗では、2022年6月から、持ち手付きの紙箱に変更し、お持ち帰り用のビニール袋を減らしたことで、プラスチック使用量を削減しました。



バイオマス原料の使用

2017年より、徳用10食入りみそ汁の外装に、バイオマスプラスチックを使用した包材を使用しています。バイオマスプラスチックは、一部に植物由来の原料を使用することで枯渇性資源である石油の使用量を削減し、従来の石化由来のプラスチックより、CO₂排出量を抑制できる環境にやさしい包材です。

2021年4月より、惣菜の素やふりかけなどの主要商品のパッケージに、植物由来の原料を使用したバイオマスインキを使用しています。



▲バイオマスインキを使用した商品の一例

調理時における環境配慮商品

2023年3月に発売した「パキット」は、パキッと折ったパスタを電子レンジにかけるだけで、パスタの茹でもソースの温めも同時にできる、専用パウチに入った“パスタソース”です。

ガスコンロを使用して調理する場合よりも、CO₂排出量を約70%削減※¹できます。また、水の使用量も、約95%削減※²できる環境にやさしい商品です。

パスタ調理の新スタイル「パキット」は、日本食糧新聞社主催の第36回新技術・食品開発賞や、日本経済新聞社の2023年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞など、数々の賞を受賞しました。



※1 家庭でパスタ(乾麺)を茹でる際に排出されるCO₂排出量(当社調べ)

※2 パスタ(乾麺)、ソース調理(湯せん)時における水の使用量(当社調べ)

条件: パスタ、ソース調理ともに
水15℃、合計使用量3リットルの場合

気候変動への対応_5

気候変動は、異常気象や生物多様性破壊を引き起こし、企業活動に大きな影響を及ぼします。

2015年には気候変動抑制の国際条約「パリ協定」が採択され、日本では2020年10月に内閣総理大臣が、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すと宣言しました。永谷園グループも気候変動の原因となるCO₂排出量削減に積極的に取り組んでいます。

再生可能エネルギーの導入

永谷園グループでは、脱炭素社会の実現に貢献するため、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの利用促進に取り組んでいます。

永谷園フーズサンフレックス工場では、屋上に太陽光パネルを設置しています。また、永谷園フーズ茨城工場では2022年1月よりトラッキング付・FIT非化石証書等が付与された実質再生可能エネルギーの電力に切り替えました。これにより年間約1,178トンのCO₂排出量を削減しました。



ボイラーLNG化

永谷園フーズサンフレックス工場は、2023年1月にボイラー※の燃料を、重油から液化天然ガス(LNG)に切り替え、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

※ボイラー：水などの液体を加熱することで蒸気や温水を作る機械



間欠運転による電力の削減

永谷園フーズ岡山御津工場では、排水処理施設のブロワー※の間欠運転を2022年7月より開始しました。工場周辺への臭気等の影響を考慮して夜間のみ実施し、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

※ブロワー：浄化槽に酸素の供給を行うことで水中の微生物を活性化し、有機物の分解を促進させる装置

LED照明への切り替え

永谷園グループでは、「長寿命」「省電力」「水銀を含まない」などの理由から、環境にやさしい照明であるLEDへの切り替えを進めています。

永谷園フーズオクトス工場では、2023年度に311灯をLED照明に切り替え、年間約35,000kWhの電力を削減し、CO₂排出量を14トン削減しました。



物流の取組み

永谷園では、輸送手段をトラックから、環境負荷が少ない船舶や鉄道への輸送に転換する「モーダルシフト」に取り組んでいます。2023年1月に、群馬県～岡山県の倉庫間輸送を、トラック輸送からコンテナ輸送に転換し、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

資源循環／廃棄物削減_1

永谷園グループは、環境負荷低減のために限りある資源の効率的な利用を念頭に、廃棄物の有効活用や食品廃棄物の削減に取り組んでいます。

食品ロスの削減の取組み

食品ロスの削減は、食品企業の責任として真摯に取り組むべき課題と考えています。

永谷園グループでは、安全性や品質を保証できることを確認した商品について、賞味期間延長を行いました。また、市販用商品、業務用商品で賞味期限の表示方法を「年月日」から「年月」への変更を順次進めています。

この取組みにより、サプライチェーン全体での食品ロス削減、物流の効率化など、社会問題解決への貢献を目指します。

賞味期間延長

永谷園（2017年）	
おとなのふりかけ 本かつお	12ヵ月 ▶ 15ヵ月
おとなのふりかけ 紅鮭	12ヵ月 ▶ 18ヵ月
松茸の味 お吸いもの	18ヵ月 ▶ 24ヵ月
麻婆春雨	12ヵ月 ▶ 15ヵ月
五目チャーハンの素	12ヵ月 ▶ 18ヵ月
藤原製麺（2014年 乾燥ラーメン全般を変更）	
札幌円山動物園ラーメン塩	6ヵ月 ▶ 8ヵ月



賞味期限「年月」表示に変更

永谷園（2021年）	
赤だし	
フリーズドライあさげ・ひるげ・ゆうげ	
ホテルニューオータニ ホットケーキミックス バニラタイプ	



「3分の1ルール」の見直し

食品の流通において、賞味期限がしっかり確保された商品を店頭に並べるための「3分の1ルール」があります。

「3分の1ルール」は、製造日から賞味期限までの期間を「納品期限」「販売期限」「賞味期限」と、3分の1ずつ均等に定められた商業における習慣です。

これまでは、販売期限までに販売できなかった商品は、卸からメーカーに返品の依頼がありました。「3分の1ルール」は、食品流通業界全体で食品ロス削減の観点から見直しの機運が高まり、当社も需要予測の精度向上や流通とコミュニケーションをとることにより、返品を減らすことで食品ロスの削減に努めています。

需要予測の精度向上

■ 永谷園

商品廃棄は、需要予測による生産と販売実績が影響します。需要予測の精度向上に向けて、社内の関連部門と連携し、生産から販売に至る流通過程での商品管理を行い、売上の変化に柔軟に対応できる生産体制の構築に取り組むことで食品ロス削減に努めています。

■ ビアードパパ

ビアードパパのシュークリームは、添加物を限りなく排除していますので、購入された日にお召し上がりいただくようお願いをしています。シュークリームは、当日製造であるため、店舗の売り上げに応じた販売予測を立て、店舗や購買・工場が連携して食品ロス削減に努めています。

フードバンクへの寄贈

自社で様々な取組みを実施しても、市場に流通できない商品が生じた場合は、食品などを主に福祉施設に無償提供する「フードバンク」へ寄贈することで、食品ロス削減に取り組んでいます。

資源循環／廃棄物削減_2

工場における食品廃棄物の削減

永谷園フーズでは、オクトス工場に続き、サンフレックス工場でも消滅型生ごみ処理機を2023年12月に導入しています。微生物の力で生ごみを分解するため、排水のみで廃棄物は発生しません。2工場合計で、年間約17トンの食品廃棄物を削減できます。



永谷園グループの各工場から排出される食品廃棄物は、肥料や飼料などにリサイクルしています。

■永谷園フーズ酒田工場

お麴の製造時に発生した規格外品や動植物性残渣は、飼料や肥料にリサイクルされています。

■サニーフーズ栃木工場

動植物性残渣の一部を近隣の農家に引き渡し、肥料として利用されています。

■藤原製麺

製麺時に発生した麺の切れ端などを、近隣の牧場に引き渡し、家畜の飼料などに利用されています。



海外拠点での取組み

JSL (Main On Foods Group) では、食品ロス削減およびエコフィードの取組みとして、カリフォルニア州にある工場で製麺時に発生した麺の切れ端などを、養豚場へ飼料として提供しています。また、Chaucer Groupにおいては、各工場の監査項目にCSRに関する活動を取り入れ、とりわけ工場におけるガス・水・廃棄物の使用および排出量の低減に取り組んでいます。

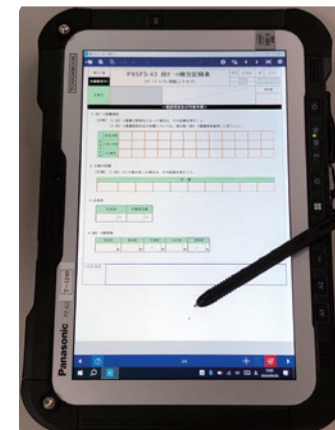
廃棄物削減の取組み

紙削減の取組み

永谷園フーズサンフレックス工場では、「i-Reporter[※]」を導入し、作業指示書を電子化することで、紙の使用量を削減しています。2023年度は、約30,000枚削減しました。

※i-Reporter (アイレポーター)

タブレット上で動作し、記入、撮影、報告をタブレットひとつで可能にする帳票入力のためのアプリケーション



持続可能な調達

永谷園グループは、法令遵守はもとより公正性・透明性を常に意識し、お取引先さまと協働で、人権・労働・環境などの社会的責任に配慮した調達活動の取組みを進めていきます。

永谷園グループの持続可能な調達方針

1 | 法令、社会規範の遵守 |

法令、社会規範を遵守しお取引先さまと公正・公平・透明な関係を築き信頼される調達活動に努めます。

2 | 地球環境への配慮 |

「永谷園グループ 環境基本方針」に準拠し、地球環境を配慮した調達活動を実施します。

3 | 公平・公正な取引 |

品質、安全性、価格、技術力、安定供給、のみならずCSRへの取組み等を総合的に評価し、公正・透明なお取引先さまの選定を行います。

4 | 人権・労働・安全衛生への配慮 |

国際的な人権に関する基準や考え方を尊重し、児童労働・強制労働を排除するとともに、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

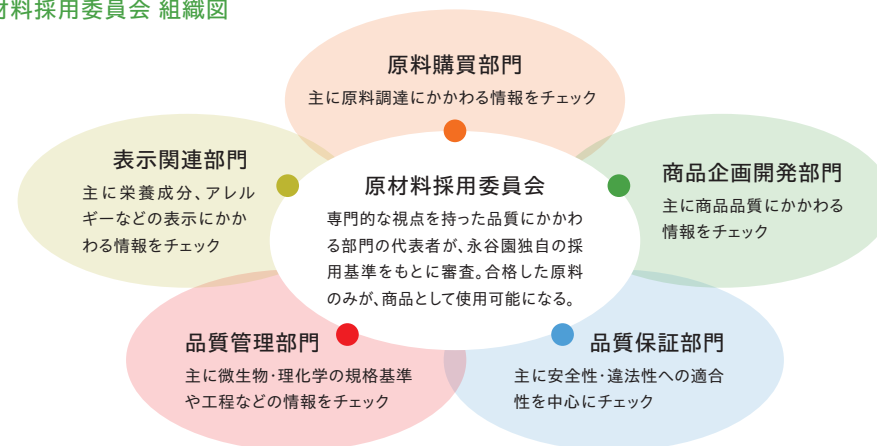
5 | 情報セキュリティへの取組み |

調達活動にかかわる機密情報、個人情報、法令ならびに自社基準に従い、適正に管理します。

6 | 社会・地域との共生 |

地域社会の一員として、お取引先さまとともに調達にかかわるリスクの低減に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

原材料採用委員会 組織図



原材料・商品の検査体制

検査を迅速に行うため、グループ会社を含めた各生産工場で「自主検査体制」を構築し、この自主検査の合否判定基準にもとづき、商品の安全性を確認しています。

また、中央検査室では、安全・安心な商品づくりのため、原材料や各工場で生産された商品について、官能検査・理化学検査・微生物検査を行い、品質と安全性を日々確認しています。

残留農薬検査・食物アレルギー検査

海外で契約栽培をしている農作物の残留農薬検査は、海外の製造メーカーと中央検査室とでダブルチェックを行い、厳しい検査体制で安全性を確保しています。

食物アレルギー検査は、消費者庁が公定検査に指定している検査法（ELISA法）での検査に加え、検査の自動化や迅速化にも取り組んでいます。

さらには、食品のにおいの分析など、新たな評価手法の導入も進めています。

原材料に関する取組み

原材料採用委員会

永谷園では、お客さまに安全・安心な商品をお届けするために、当社の商品に使用する原料の安全性・遵法性を確認する部門横断型の原材料採用委員会を、定期的に開催しています。

原料は、安全性・遵法性の基準のほか、過去の経験を踏まえた永谷園独自の採用基準を設け、「原料規格書」やそれに付随する情報を、原材料採用委員会が専門的な視点で審査し、合格になった原料のみを使用します。

また、採用後の原料に対してもこの審査を定期的に行い、常に最新のルールにもとづいた原料を使用する体制を維持しています。

これら原料情報は、データベース化されており、お客さまが必要とされる原料情報等を速やかに提供できる体制としています。

人権への対応_1

人権について

人権方針の策定

永谷園グループ人権方針は、「永谷園グループ サステナビリティ方針」にもとづいた人権に関する方針として、永谷園グループすべての事業活動における基盤となるものです。永谷園グループは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響をおよぼす可能性があることを認識し、事業活動にかかわるすべての人の人権を尊重するために、「永谷園グループ人権方針」を定め、人権尊重の取組みを推進していきます。

人権推進の体制

人権尊重・人的資本の取組みは、サステナビリティ委員会人権部会を中心に、グループ各社の関係部署と連携して活動を進めています。具体的な取組み内容は、社長が委員長であるサステナビリティ委員会に報告し、審議・検討しています。

人権尊重の啓蒙・理解促進

企業コンプライアンスの基本のひとつである「人権尊重の啓蒙・理解促進」のため、従業員には「遵法週間による啓蒙」「eラーニング」「社内掲示板」で、人権に関する基本的な理解を促進し、ケーススタディを用いて具体的に注意すべき事項など、人権方針に関する理解促進を図っています。

ヘルプラインとしての窓口設置

内部通報制度として、社内および社外に相談窓口を設置し、電話やメールなどで従業員がいつでも相談できる体制としています。また、従業員が窓口を利用しやすくするために、定期的な周知を行っています。

永谷園グループ人権方針

1. 基本的な考え方

社会の一員として、すべての事業活動における人権尊重の重要性を認識します。事業活動においては、人権に関するすべての法令を遵守し、「世界人権宣言」と国際人権規約である「市民的及び政治的権利に関する国際規約」「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関（ILO）の宣言」および、国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）」などの国際的な規範や基本原則を尊重します。

2. 適用範囲

本方針を、永谷園グループのすべての役員と従業員に適用します。また、自社の製品・サービスに関係するすべての取引関係者に対しても、本方針を理解し、支持していただくことを期待します。

3. 人権尊重の責任

自らの事業活動にかかわるすべての人の人権を侵害しないことに努め、人権への負の影響が生じた場合は是正に向けて適切な対応をとることにより、人権尊重の責任を果たすサプライチェーンを築いていきます。

4. 人権デュー・ディリジェンス

人権デュー・ディリジェンスの仕組みを構築し、これを継続的に実施することで、企業活動による顕在的、潜在的な人権リスクを評価し、把握し、未然に防止し、軽減していきます。

5. 情報開示

自らの人権尊重の取組みの進捗状況を、ウェブサイトなどで継続的に開示します。

6. 対話・協議

本方針を実行する過程において、独立した外部の専門家からの助言を受け、ステークホルダーとの対話と協議を行います。

7. 教育・研修

本方針がすべての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、すべての役員および従業員に対して適切な教育・研修を行います。

8. 責任者

本方針の実行に責任を持つ担当役員を明確にし、実効性を担保します。

9. 人権における重点テーマ

働きがいのある企業グループの実現を目指し、ダイバーシティを尊重するとともに、永谷園グループ企業倫理綱要に定める以下の項目にもとづいて、人権遵守における重点テーマとして位置づけます。

●労働安全衛生

職場の安全・衛生に関する法令・ルールとその運用状況を確認し、安全で健康的な職場環境を作ります。

●差別・ハラスメント

個人の人権と多様性を尊重し、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、言語、障がい、社会的出身等を理由とするあらゆる差別およびハラスメントを排除して、公正な処遇がされる職場環境を作ります。

●多様性

多様な個性を持つ、すべての人が率直に意見や行動を示せるよう、互いの考え方や立場を尊重し、自由闊達で風通しの良い職場風土の醸成に努めます。また、永谷園グループ内の活発なコミュニケーションを通して、一体感のある協調的な関係を構築します。

制定：2023年4月1日

株式会社永谷園ホールディングス 代表取締役社長

永谷 泰次郎

人権への対応_2

人権デュー・ディリジェンスの実行

人権デュー・ディリジェンスとは

企業活動における人権リスクを抑える取組みのこと。

具体的には、自社の企業活動において、強制労働やハラスメント等の人権リスクや、人権に対する負の影響がないかを特定し、そのリスクを分析・評価して、適切な対策を策定・実施すること。

永谷園グループの事業活動によって、影響を受ける人々の人権尊重のため、国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、以下の人権デュー・ディリジェンスのサイクルを実施していきます。

- 永谷園グループは、私たちの企業活動が直接的に、あるいは間接的に、人権に及ぼす影響があることを理解し、企業活動による顕在的・潜在的な人権リスクを評価・把握し、未然に防止・軽減します。
- この人権と企業活動とのかかわりについて、役員・従業員が理解を深め、人権を尊重するよう、教育・啓蒙を継続的に実施していきます。また、人権にかかわる影響について、適切に把握し対応するため、関係するステークホルダーと積極的に対話と協議を行います。

人的資本について

永谷園グループは、国内・海外・中食と幅広い分野に事業活動を展開しています。

幅広い分野で多様な人材が、互いに尊重し合い、能力を発揮し活躍できる企業を目指し、社内環境の整備や企業風土の醸成に取り組んでいます。

人材育成

人材育成方針

従業員一人ひとりが、個性や能力を最大限に発揮し、いきいきと働くことが企業の成長であり、企業価値の向上につながると考えています。

多様な人材の活躍につながる機会づくり、成長実感を持てるキャリアや学びの仕組みづくりを通し、従業員が互いに多様な価値観を尊重しあい、一人ひとりの成長意欲や個性・能力を最大限に発揮できる企業風土づくりを目指しています。

従業員の自主性・多様性を育てるため、「トレーナー・トレーニー制度」を導入しています。周りに相談しながら経験を増やし、職場の仲間同士が教え支え合うことで、「個」だけでなく「組織全体」で人材を育む取組みを行っています。

時代の変化に即応し、会社とともに成長・進化できる人材育成を目指しています。

多様な人材の活躍に関する指標と目標

多様な人材のより一層の活躍を目指し、以下の目標を設定しました。

指標	女性管理職比率	男性の育児休業取得率	女性の育児休業取得率
2030年度 目標	15%	30%以上	100%
2023年度 実績	8.8%	40%	100%

※対象は永谷園

なお、永谷園フーズおよびDAY TO LIFEについては、下記の厚生労働省「女性活躍企業データベース」にて、情報を開示しています。

永谷園フーズ

▶ <https://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/detail?id=36541>

DAY TO LIFE

▶ <https://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/detail?id=10147>

人権への対応_3

D&I 多様な人材の活躍

男女ともに活躍できる環境・次世代への取組み

■永谷園

従業員が男女ともに活躍でき、仕事と子育てを両立できる職場環境づくりを推進しています。

2022年10月に、女性の活躍推進などに関する状況が優良な企業として厚生労働大臣より「えるぼし認定」を受け、最高位である“3つ星”を取得しました。

また、2023年12月には、次世代育成支援対策推進法にもとづき、目標の達成と一定基準を満たした企業に対し、厚生労働大臣が「子育てサポート企業」として認定する「くるみん認定」を取得しました。



■DAY TO LIFE

DAY TO LIFEでは、2024年3月大阪府で2社目の「プラチナえるぼし」を取得しました。



障がい者の雇用

永谷園グループでは、各事業所のほか、2018年に開園した農園「永谷園ふぁーむ」などで、一人ひとりにあった職務を担当し、活躍しています。



永谷園（働き方）

▶ <https://www.nagatanien.co.jp/company/diversity.html>

※対象は永谷園ホールディングス、永谷園

D&I 多様な人材の活躍の取組み

●フレキシブルな働き方

永谷園では、コアタイムなしの「フレックスタイム制度」を活用しています。これを育児・介護を事由とした短時間勤務制度との併用を可能とすることで、在宅勤務・シェアオフィスの活用も含め柔軟な働き方を実現しています。

●サポート休暇

自己啓発、ボランティア、ファミリーケア、子育て支援等、複数事由から選択制で取得できる特別休暇です。介護、ボランティア、自己啓発等の選択の幅があります。従業員が仕事と生活を両立させながら、いきいきと働き続けられる職場環境の実現に取り組んでいます。

●部・サークル活動

社員相互間および世代を超えたコミュニケーションの向上や、心身の健康増進を図り、より働きやすく楽しい職場にするための施策として、会社公認の部・サークル活動を推進しています。

詳細は、当社ホームページにて公開しています。

永谷園グループのサステナビリティ

▶ <https://www.nagatanien-hd.co.jp/sustainability/policy/>

人権への対応_4

健康経営・社内環境整備

永谷園グループの従業員が、健康で明るくアグレッシブに活躍するために、従業員の健康保持・増進に積極的に取り組み、一人ひとりの健康状態をより「良好」に近づけるとともに、安全な労働環境を維持増進することで、事業を継続的、安定的に発展させていくことを目指します。

安全衛生委員会

毎月開催している安全衛生委員会の活動で、従業員が安全安心かつ健康に働けることを目指して、産業医による社内巡視や、定期的なAED講習会等、様々な取り組みを実施しています。



▲永谷園HD・永谷園



▲岡山工場



▲岡山御津工場



▲酒田工場



▲藤原製麺
(産業医による工場巡視報告)

国内の各工場では、従業員の体調管理を最優先に熱中症対策を実施しています。



▲送風ファン付ベスト
(茨城工場・サニーフーズ栃木工場)



▲パトロール班による給水見回り
(酒田工場)

健康経営および労働安全衛生の取り組み

●健康相談窓口(からだ・こころ)

産業医やカウンセラー(臨床心理士)による健康相談窓口を、毎月開いています。従業員に寄り添った対応で、従業員も気軽に相談でき、心身の健康維持に努めています。

●永谷園ファミリーサポート24

24時間365日受け付けている外部相談窓口で、心身の健康、育児、介護、医療機関照会等、幅広い相談ができます。

●ストレスチェックによる組織分析

年に1度のストレスチェック結果をもとに、外部委託による集団分析をしています。一般企業の平均や、組織間比較等により、未然にリスク要因を分析する等、従業員がより働きやすい職場になるよう努めています。

※対象は永谷園ホールディングス、永谷園

お客さまとのかかわり_1

永谷園グループは、日ごろからお客さまの声を聞き、ご意見を真摯に受け止め、エンゲージメントの向上につなげています。

お客さまの声を聞くことで、より一層お客さまのニーズに合った商品・サービスの改善に役立て、末永く支持いただける商品づくりを目指します。

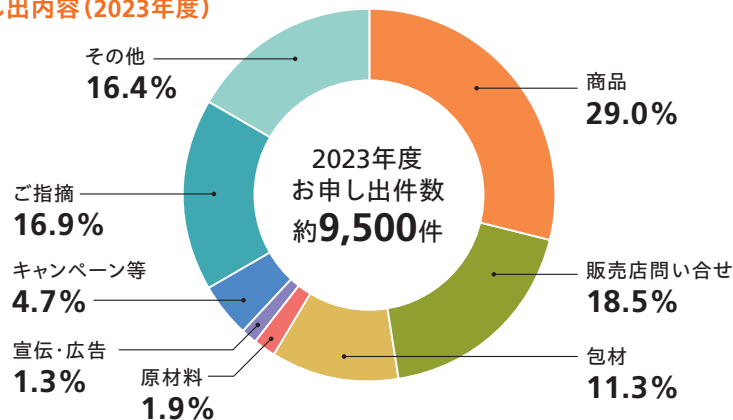
「お客さまの声」を大切に

永谷園グループは、お客さまからの貴重なお申し出を、商品開発や改善に役立てたいと常に考えています。永谷園では、お客さまとのコミュニケーションの拠点として「お客様相談室」が窓口になり、いただいたお申し出に迅速かつ正確にお応えする体制を整えています。2023年度は年間約9,500件のお問い合わせやご意見をいただきました。いただいたお申し出は、社内のデータベースに蓄積し、日々「お客さまの声」として、社長を含め社内に情報発信しています。

また、データを集計・分析して定期的に「品質保証連絡会」を開催し、開発部門や生産部門などで、よりよい商品づくりに反映できるような仕組みにしています。

今後も、お客さまに満足していただける商品を提供できるよう、一つひとつの「お客さまの声」を大切にしていきます。

■お申し出内容(2023年度)



- お客さまからご提供いただいた個人情報は、個人情報に関する法令等を遵守し、管理・保護しています。
- 「お客さまの声」には、お客さまの個人情報は記載されません。

お客さまの声からの改善事例

●作り方表記の変更

すし太郎の作り方を、お客さまからいただいたお声をもとに、従来の「2人前×2回分」から「2人前(1.5合用)×2袋」に変更しました。また、作り方の手順をイラストで具体的にしたことにより、お客さまがイメージしやすい表記にしました。



●パッケージデザインの変更

2022年9月に発売された、だしの香りや旨みを手軽に楽しめる「だしごこち」シリーズについては、お客さまの声をもとに、パッケージにイラストを追加し、シリーズの特長である「香り」の良さを伝えるメッセージを追加し、これまでよりも手にとりやすい商品設計にリニューアルをしました。



お客さまとのかかわり_2

「お茶づけ」を楽しく学べるイベントを開催

永谷園は、2023年8月2日に親子で「お茶づけ」を楽しく学べるイベント「永谷園でオリジナルのお茶づけを作って楽しもう」を、永谷園本社にて実施しました。

本イベントは、「永谷園子育てプロジェクト」のメンバーが、企画から当日の運営までを一貫して行いました。朝にササッと作って食べられる「めざまし茶づけ」をテーマに、自分好みに仕上げた、世界にひとつだけの「オリジナルお茶づけ作り」や、アレンジレシピの調理・実食、永谷園の歴史を学ぶ社内ツアーなどを実施しました。



フリーズドライあさげのサンプリングを実施

永谷園では、即席みそ汁「フリーズドライあさげ」の簡便性や、おいしさをより多くの方に知ってもらうために、2024年3月上旬から全国の商業施設、映画館、郵便局などで、永谷園史上最多の23万人にサンプリングを実施しました。サンプリングを通じて、お客さまより「疲れた時に便利」「インスタントはあさげしか飲まない」「職場に持ってきたい」などのご感想をいただきました。



SDGsイベント DAY TO LIFE “ビードパパのシュークリームトレーラー”を出店

DAY TO LIFEは、2023年5月18～21日の4日間、TBS放送センター前・赤坂サカス広場で開催されたTBSのSDGsイベント『地球を笑顔にする広場』にて、“ビードパパのシュークリームトレーラー”を期間限定で出店しました。

当日はビードパパのシュークリームの販売だけでなく、「残さず食べよう!」をテーマに、シュークリームの生地を使用したラスク作り体験を通して、SDGsを学べる無料のワークショップを開催しました。



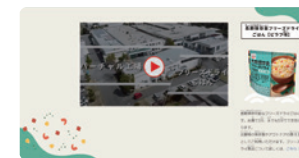
バーチャル工場見学／バーチャル展示室

永谷園フーズでは、安全・安心への取り組みや生産現場の魅力を伝えるコンテンツとして、永谷園商品の生産工程を追う「バーチャル工場見学」を公開しています。

2023年5月1日には、創立70周年を迎えた記念として、永谷園ホールディングスのホームページ内に特設サイト「永谷園革命」を開設しました。

永谷園の「味ひとすじ」の原点となった創業者の祖先である永谷宗七郎(宗円)による煎茶の製法開発、「お茶づけ海苔」、「松茸の味お吸いもの」など、これまで世の中になかった革命的商品の誕生に挑戦した歴史をご紹介します。

また「永谷園ホールディングス展示室 資料館」(永谷園本社1階)では、過去に販売されたユニークな商品や貴重な写真などを展示しており、ウェブ上でも見学できる「バーチャル展示室」を公開しています。



バーチャル工場見学▶https://www.nagatanien-foods.co.jp/factory_tour/

バーチャル展示室▶<https://www.nagatanien-hd.co.jp/company/exhibitionroom>

地域社会と次世代の発展のために_1

永谷園グループは、様々な社会の課題に対して、食を通じた活動に取組み、持続可能な「幸せで豊かな社会づくり」に貢献しています。

フードバンク活動への支援

永谷園グループでは、生産から出荷、流通に至るまでの自社のバリューチェーンで、様々な要因で市場に流通できない商品を、食品などを主に福祉施設に無償提供する「フードバンク」へ寄贈しています。

ひとり親家庭への支援

永谷園ホールディングスは、2022年5月から「認定NPO法人 おてらおやつクラブ」へ商品の寄贈を開始しました。同法人は、お寺に寄贈される食品や日用品などを、全国の寺院や支援団体の協力のもと、様々な事情で困りごとを抱えるご家庭へお届けし、貧困問題の解決に寄与する目的で活動を行っています。

おてらおやつクラブ ホームページ

▶ <https://otera-oyatsu.club/>



「夏休み 子どもの食 応援ボックス」への支援

永谷園ホールディングスは、国際NGOセーブ・ザ・チルドレンが実施している「子どもの食 応援ボックス」の取組みに賛同し、2023年7月に商品を寄贈しました。

「子どもの食 応援ボックス」は、経済的に困難な状況にあるご家庭の子どもたちの「食」の状況改善を目的としています。

セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもたちの健全な成長などに寄与すべく、子どもの貧困問題解決に取り組んでいます。



災害被災地への支援

永谷園ホールディングスは、2023年3月に加盟した緊急災害対応アライアンス「SEMA（シーマ）」を通じて、同年に発生した茨城県取手市と秋田県秋田市の水害や、2024年の能登半島地震の被災地へ支援物資を提供しました。

「SEMA」は、民間企業と市民団体（CSO）が連携して、日本国内の災害支援を行うための仕組みで、大規模な自然災害の発生時に、支援の届かない被災地などへ、必要な物資・サービスを迅速に提供します。

永谷園ホールディングスでは、本活動に協力し災害発生時に一刻も早く、ひとりでも多くの被災者の方々に支援していきます。



一般社団法人ピースポート災害支援センター



地域社会と次世代の発展のために_2

知的障がい児者スポーツへの支援

永谷園ホールディングスは、2020年より「一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会」のオフィシャルサプライヤーとして、商品を通じた支援活動を行っています。同協会は、知的障がい児者が運動やスポーツを行える環境整備のほか、啓発活動を展開して、重度や重複障がいのある方々のスポーツ参加を支援することを目的に活動をしています。



愛知FIDバスケットボール連盟主催「チャレンジ大会」

発展途上国にワクチン支援

永谷園ホールディングスでは、ペットボトルのキャップをプラスチックのリサイクル資源として業者に引き取ってもらっています。リサイクルされた費用の一部でNPO団体を通じて、発展途上国の子どもたちにワクチンが届けられています。このリサイクル活動を通して、CO₂排出量の削減につながっています。



地域の美化活動

永谷園グループの各事業所では、定期的に周辺地域の清掃活動・美化活動に取り組んでいます。近隣の工場の方や地域の方と一緒に活動を行うこともあり、従業員だけでなく周辺地域との交流の場にもなっています。今後も定期的な清掃活動を実施することで、周辺地域の美化の維持に努めていきます。

■永谷園フーズ



酒田工場：2023年5月



サンフレックス工場：2023年5月



茨城工場：2023年6月



オクトス工場：2023年7月

■サニーフーズ



栃木工場：2023年11月

教育支援活動

永谷園グループは次世代を担う子どもたちに、食と健康・ものづくりの楽しさを、体験を通じた教育支援活動で、社会課題の解決に貢献していきます。

出前授業

■永谷園ホールディングス

｜摂津市立第二中学校｜

大阪府摂津市教育委員会の職業体験プログラムに参加しました。同プログラムは、摂津市が取り組むキャリア教育の一環で「企業や団体のサポートのもと、他者と協力して課題解決に取り組むことで、行動や体験を通して自己理解を深め、将来に向けた思考力を育成すること」を目的としています。

2023年12月に、摂津市立第二中学校の中学2年生を対象に、「朝に食べなくなる“お茶づけ”を考える」を課題とした授業を実施しました。中間と最終のプレゼンテーションを経て、本課題に取り組んだグループが、校内全体発表で最優秀グループに選ばれました。これからは、創造的思考の育成につながるキャリア教育活動に協力していきます。



｜福岡市立愛宕浜小学校｜

2023年12月に、6年生に向けて「食育授業」を実施しました。授業では、「朝ごはんの大切さ」を学び、朝ごはんを食べる「オリジナル茶づけ」を作ります。「オリジナル茶づけ」は、好きな具材を選び、商品名を考え、袋のデザインを描くなど、自分だけのお茶づけです。

生徒たちからは、「朝ごはんの大切さや、朝ごはんの良いところを、楽しみながら学ぶことができた」「自分だけのオリジナルの具を選んだり、デザインを考えるのが楽しかった」「お茶づけは朝ごはんに良いことを知り、これから食べてみようと思った」などの感想がありました。同授業は、他にも3校から依頼を受けて実施しています。これからは、楽しみながら学べる食育活動に取り組んでいきます。



■永谷園 大阪支店

｜宇治田原町立宇治田原小学校｜

2023年5月に、京都の宇治田原町の小学生を対象として、朝食やお米の重要性を説くために、朝ごはんが大切である「めざまし茶づけ」の説明や、お茶づけクイズなどの出前授業を実施しました。



企業訪問

■永谷園ホールディングス

修学旅行プログラムの一環である「企業訪問」で、関東に訪れる中学生グループの企業訪問を受け入れています。2023年度は、7校の学生さんが訪ねてきてくれました。これからも、将来に向けた思考力の育成につながるキャリア教育活動に協力していきます。

■藤原製麺

2023年10月に、旭川市内の中学1年生が学習の一環で、藤原製麺本社に企業訪問に訪れ、会社概要や製造工程の説明、作業着の着衣・ラーメンづくりを体験してもらいました。生徒からは、「消費者を第一に考えて、ラーメンを作っていることが分かった」との感想がありました。



工場見学

■永谷園フーズ オクトス工場

｜三重県立飯南高等学校｜

2023年6月に、三重県立飯南高等学校の2年生が、工場見学に訪れました。作業内容の説明、段ボールを積み上げる装置や、自動フォークリフトなどを見学し、「機械が自動化され、作業現場の人の少なさに驚いた」「清掃の行き届いた綺麗な工場だった」などの感想がありました。



コーポレート・ガバナンス_1

永谷園ホールディングスは、ステークホルダーの立場を尊重し、長期的な信頼関係を築き、企業の発展につなげていきたいと考えています。そのために、経営判断の迅速化と、経営のチェック機能の充実を図ることを、重要な経営課題と認識しています。

企業統治の体制

当社は、戦略策定・業務監督機能と業務執行機能との分離を明確にするために「執行役員制度」を導入しています。また、経営のチェック機能は、従来から監査役制度を採用しており、監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、当社の業務や財産状況の調査はもとより、子会社の調査も実施しています。

内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役の職務の執行が、法令および定款に適合すること、その他当社グループの業務の適正を確保するための体制整備に取り組んでいます。各取締役は、内部統制の仕組みを構築し、その有効性を定期的に評価・確保する責務を負っており、各監査役がその監視を行っています。内部監査部門は、定期的に各社・各部門で内部監査を実施した結果を取締役社長と監査役に報告し、相互の連携を図っています。さらに、社長直轄のリスクマネジメント委員会を設置し、同委員会で、内部統制システムの構築状況および運用状況の妥当性を確認し、必要に応じて具体的な対策を取締役社長に提案し、取締役会に報告しています。

グループ会社の業務の適正を確保するための体制

当社の内部監査部門が、定期的にグループ会社の内部監査を実施し、各社の業務執行を調査して、取締役会においてその結果を報告しています。グループ会社に関する重要事項は、事前承認が必要、あるいは報告を受ける機会を設けることで、グループ会社の業務の適正の確保に努めています。

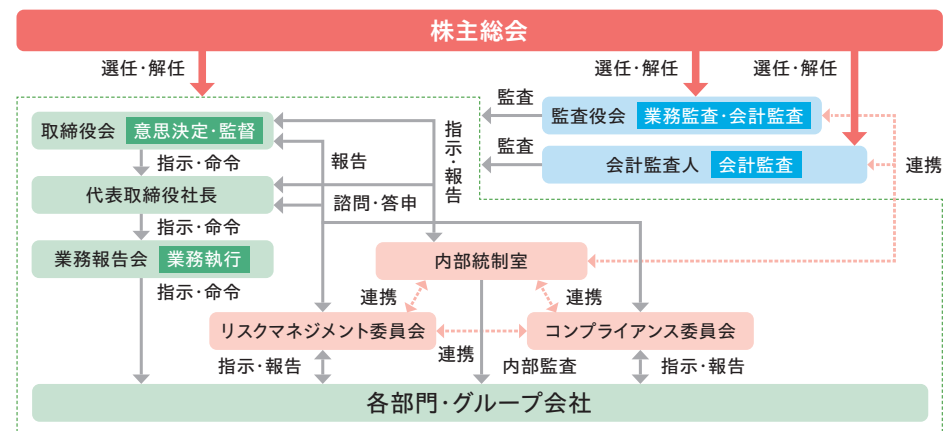
コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、企業倫理および遵法精神にもとづく企業行動の徹底を図るため、重要方針を審議し、当社グループ内に普及・徹底させるための教育と、各種施策を立案・実施するとともに、コンプライアンスに関する疑義・違反事項への対処・措置を審議し、コンプライアンス体制を継続的かつ、効果的に維持することを目的としています。また、当社グループでは、コンプライアンスに関する相談や内部通報を受ける窓口を、社内・社外に設置しています。

リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会では、永谷園グループにおけるリスクを網羅的に洗い出し、特に重点的に取り組む必要があると判断されたリスクを、社長へ報告し、リスク低減策の検討およびリスク発生防止のための事前対策を図っています。

■コーポレート・ガバナンス体制



コーポレート・ガバナンス_2

取締役会の概要および活動状況

取締役会は、6名の取締役で構成し、月1回の定期開催に加え、必要に応じて迅速に開催し、決定事項のほか、特に重要な業務執行に関する事項について、取締役会規程にもとづき決議しています。また、経営の円滑な意思決定機能を強化するため、各部門長から取締役に對して、業務の執行状況を報告するための業務報告会を、定期的に開催し、さらに、随時各部門長が、企画提案および情報提供を行うための会議を開催しています。

当社の取締役会では、社外取締役および社外監査役は、各々の専門的知見や幅広い経験のもとづき、独立した立場から中立的かつ率直な意見を述べています。また、顧問弁護士、会計士等の意見も踏まえ審議しています。

監査役会の概要および活動状況

監査役会における主な決議事項は、監査方針および監査計画ならびに職務分担（取締役会へ報告）、監査役会の監査報告書、常勤監査役の選定、補欠監査役選任議案に関する同意、会計監査人の再任、会計監査人の監査報酬に関する同意、監査役監査基準の改定等となっています。

監査役会の主な活動状況としては、取締役および執行役員へのヒアリング、株主総会および取締役会への出席、重要な会議への出席または関与、重要な決裁書類等の閲覧、グループ会社事業所への往査および結果報告、グループ会社監査役との連携および往査、グループ監査役連絡会の開催および出席、会計監査人との連携、内部監査部門との連携を行っています。

編集後記

今年も、永谷園グループのサステナビリティレポートを発行することができました。今回、初めて編集作業に携わったわたくしは、あらためて企業の社会的責任の重要性を実感しました。企業活動は、必然的に環境や社会に影響を与えます。その影響が肯定的なものとなるよう、企業は努力を重ねることが求められると感じました。

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、皆さまから愛され、信頼される永谷園ブランドの価値向上に努めてまいりました。現在、食品業界を取り巻く環境は、大きく変化しており、気候変動への対応や人権尊重、企業統治の強化など、企業に求められる役割は年々高まっています。これらへの対応なくして、「味ひとすじ」は、あり得ないと認識しております。

特に、気候変動に関しては、日本のみならず、世界各地での激甚な災害に関するニュースが途切れることなく、農産物や水産物への影響など、ますます深刻になっています。

永谷園グループでは、こうした課題に真摯に向き合い、それらへの対応のみならず、事業活動の持続や、新たな収益機会にもつながらよう活動してまいります。

未来の地球に思いを馳せ、常に「何をすべきか」を考え抜き、持続可能な「幸せで豊かな社会」の実現に向けて、永谷園らしい積極的な対応・提案・開示を続けてまいります。

株式会社永谷園ホールディングス
CSR推進室長 五月女 真人